



ラ (ら行)	ノ	ネ	ヌ	ニ	ナ (な行)	オ	エ	ウ	イ	ア (あ行)
1	14	13	4	7	14	38	18	14	25	58
ワ (わ行)	ホ	ヘ	フ	ヒ	ハ (は行)	コ	ケ	ク	キ	カ (か行)
12	20	28	28	14	37	27	32	22	18	72
ン (ん行)	モ	メ	ム	ミ	マ (ま行)	ソ	セ	ス	シ	サ (さ行)
9	11	20	17	11	35	18	0	21	78	31
計	ヨ	ユ	ヤ (や行)	ト	テ	ツ	チ	タ (た行)		
903	10	6	14	29	24	13	16	24		

アオー	アガ	アガル	アギル	アグ	アグツグリ	アグド	アグバッテ	アゲエ	アゲタ	アコモコ	アサグ	アサゲ	アサゲネ	アシタカ	アシモトケネ	アズカル	アズマシイ	アセエ	アダコ	アタムシ	アダル	アダル	
やー	垢	どしゃぶり	あきあきする	灰	悪いことばかり	かかと	図体が大きく窮屈だ	赤い	上あご	悪口をいう	歩く	歩きなさい	歩けません	わら革履(外履)	歩くことがおぼつかない	養う、育てる	気持ちいい	浅い	子守り娘	惜しい	薪火などで暖まる	脳卒中、中風	
アツケ	アツケラド	アツタオン	アツタラ	アツパ	アツペ	アデガテ	アデクセ	アドサリ	アドハダリ	アドホル	アネサガ	アヒゲル	アベ	アベグチ	アベケナシ	アヘツガシ	アヘド	アヘボ	アボス	アメジ	アメニ	アメル	アリガドゴス
悪童	口をあけて、ぼかんとして	とする処であった	あのような	妻・母さん	反対のこと	当てる	取るにたらない	後ろ向きに歩く	もつとくれと頼む	ついて行くとだたをこねる	あおむけ	汗びっしょり	行こう	うけ口の人	味わいが無い	煩わしい	受け答える	あせも	重たすぎる	怪我	時たま	食物が腐る	有難うございます

アレネ	アヤ	アヤコ	アヤコ	アヤコ	アヤケル	アンコ	アンダ	アンチヨ	アンツコド	アンベ	アンマス	(イ)	イイキナガテ	イガサマ	イキモキ	イゲジャガス	イゴス	イゴステス	イコトコ	イズイ	イダコ	イダリ	イダワシ
危険ではらはらする	お父さん	お手玉	じゃれる	因縁をつける	長男	あなた	長男	心配だ	ぐあい	度はづれた	いばっている	いかに	おちつきがない	こざかしい	結構です	結構でございます	ままごと	痛がゆい	仏おろしする女	つば、唾	惜しい		
イチクル	イチヤツグ	イチニチフダメ	イッカダ	イッチョグ	イットゴマ	イッペエ	イノガス	イノグ	イノグナ	イフテラ	イフリコギ	イペコ	インテ	ウスケネ	ウシケル	ウシヤネコグ	ウシヤメグ	ウソシ	ウソマナグ	ウダデ	ウチグ		
撫でまわす	仲良い男女のさま	一日おきに	いつもいつも	一気にかけぬける	ちよつとの間	沢山	動かす	動く	動くな	まにあっています	見栄っぱり	女性性器 男女交接	いいようだ	情けない	甘える	烈しい労働で苦勞する	寒気がして身震いする	いつもそをつく人	やぶにらみ、斜視	気味悪い	伝染する		

ウツカモ	ウルウルテ	ウルガス	ウルゲル	ウルダグ	ウルメ	(エ)	エアンベ	エガナ	エガラメグ	エガル	エグ	エグチ	エグネ	エズ	エター	エックラカゲン	エツツネ	エトマガ	エドマナグ	エバル	エパダシケ	エヘル
足の爪先を内側に向けて歩く人	うろうろ落着かない	水に漬けておく	水になごむ	あわてる	深い味わい	ざまあ見る	なんの、一向にもぞもぞと肌を刺すさま	気持がいいさま	行く	みつくちのこと	よくない	痛がゆい	たつち	いいかげん	とつくに	ちよつとの間	目玉が引っ込んで	威張る	おかしい	ふてくされる		
エプテ	エンツコ	オエサ	オエル	オガ	オカガル	オガサベリ	オガシケンタ	オガテラ	オガル	オキ	オキガル	オケル	オゴラエ	オジマ	オジャス	オジャスネ	オジャナネ	オジヨム	オズゲ	オタル	オッカネ	
煙たい	赤ちゃんを入れる薬で編んだかこ	私に家に	生える	母	寄りかかる	無駄口が多すぎる	変なような	生えている	伸びる	大きい	強がる	転んだ	威敵がある	履物をぬぐところ	世話をする	世話しない	思うようにならない	怖がる	味噌汁	疲れてしまう	こわい	

オツツ 啞
 オッパ しっぱ
 オド 親父
 オドガル 目を覚ます
 オドゲ あご
 オドデナ 一昨日
 オドユビ 親指
 オナゴカンジヨ 貸借を区別して勘定する
 オニヤ 外
 オベサマ 物知りをやゆしていう
 オボコ 赤ちゃん
 オボル おんぶする
 オメダチ あなたたち
 オヤコ 親類
 オロー おや、まあ
 オンコ 糞
 オンジ 次男
 オンチャ 次男
 カギゲシ 垣根
 カ 物をくれる
 (カ)
 カクシ ポケット
 カクジ 住宅の敷地内にある畑
 カゲゴ 釣った魚を入れる竹籠
 カゲル 妊娠すること
 カジャフギ 感胃をひいている人
 ガジヨマ やせこけた老馬
 カスガル 傾むく
 カダクラ 頑固者
 ガタキタ 身体の弱くなった
 カダナ 参加するな
 カダネ 不参加
 カダリコ 老後面倒を見てくれる人
 カダル 仲間に加わる
 カダレ 参加しろ
 カチャクチャネ くしゃくしゃする
 カチャグ ひっかく
 カチャマシ うるさくて、いらぬ
 カチャメギ ぬかるみ
 カチヨベネ 小さく貧弱だ
 カジイデラ 飢えて死にそうだ
 カツグ 追いつく
 カツクツウドス ゆうつなさま
 カツケル カツケル
 ガッコ ガッコ
 カツチャ カツチャ
 カツチョコ ガツチャギ
 カッパ カッパ
 ガツパ ガツパ
 ガッパド ガッパド
 カデル カナガ
 ガニアシ ガニアシ
 ガニクソ ガニクソ
 カネヘ ガバチヨ
 カヘ カヘ
 カヘル カヘル
 ガヘ ガヘ
 カプケル カプケル
 ガホラメグ ガホラメグ
 カマド カマド
 カマドケシ カマドケシ
 カマス 掻きまわす
 カマリ 匂い
 ガメル 盗む
 ガモ 男性器
 カモアシ 爪先を内側に向けて歩く
 カモル 構うこと
 カヤギミソ 貝で味噌を煮て食う
 カラガグ (ゲル)しぼる
 カラキジ わがままな気質
 カラクジ へらざ口
 カラコシヤグ ちゃんちゃらおかしい
 カラシゲ 脚畔をつけてない
 カラスネカラ 裸の脚
 カラツキアゲ 吐き気がしてつきあがる
 カラモグ だだをこねる
 カラボネヤミ なまけもの
 カレゴ 壁上の障子に住み込み囃らかされた
 カワアツ 顔の皮が厚い、欲が深い人のこと
 カワノゲ 眉毛
 ガンガラド 妙に明るいさま
 ガンクラ でこぼこしたさま
 ガンケナシギ 高くでた額のこと
 カンジ びっこ
 カンニ ごめん

ガンブ しらくも
 ガンペ キセルの煙草をつめるところ
 (キ)
 キカジ 耳が聞こえない
 キカネ 負けん気が強い
 キクラメグ 関節がかくかくなる
 キクラヘンキギ ぎっくり腰
 キシモド いろいろの端、横座と対
 キタギル 断ち切る
 キナ 昨日
 キパシネ きぜわしい
 キパマガス 叱りつける
 キマガレル 怒られる
 キマグ おこる、叱る
 キマゲル 憎らしい
 キモヤゲル 腹をたてる
 キビイイ 腹が立つ
 キビチョコ 楽しい、嬉しい
 キル 急須のこと
 キーワリエ 悪い予感がある

ク ク
 クイジャメ クイジャメ
 グウグド グウグド
 グシラメグ グシラメグ
 グズメグ グズメグ
 グダメグ グダメグ
 クタバレ クタバレ
 クヅ クヅ
 グツチャメグ グツチャメグ
 クツチャベ クツチャベ
 クツパン クツパン
 クドグ クドグ
 クドクラシ クドクラシ
 クデ クデ
 クソマグラエ クソマグラエ
 クバル クバル
 クピタ クピタ
 クヒヤミ クヒヤミ
 クベル クベル
 クマガル クマガル
 グヤメグ グヤメグ
 食べる
 腹一杯食べておく
 さつさと
 鼻汁がでる
 ひとり言
 ぐちをこぼす
 死んでしま
 藁で編んだ冬の靴
 水溜りのぬかる道
 おしゃべり
 話上手な人をやゆする
 悩みをうちあける
 しつこく煩わしい
 むづかしい
 相手を馬鹿にした言葉
 詰まる
 首
 つわりのこと
 閉ざす
 火をたく、まきをたく
 からまり、もつれる
 病弱で弱々しい
 (ケ)
 ケ ケ
 ケ(ケ) ケ(ケ)
 ケ(ケエツ) ケ(ケエツ)
 ケ(ケツ) ケ(ケツ)
 ケ(ケー) ケ(ケー)
 ケアブネ ケアブネ
 ケエネ ケエネ
 ケガチ ケガチ
 ゲジャメグ ゲジャメグ
 ケス ケス
 ケスグネ ケスグネ
 ゲスクミ ゲスクミ
 ゲソラド ゲソラド
 ケタガル ケタガル
 ゲダガ ゲダガ
 ケツタブ ケツタブ
 ケツメグ ケツメグ
 ゲツパ ゲツパ
 ケッパレ ケッパレ
 ケネ ケネ
 ケヘ ケヘ
 ケペ ケペ
 毛
 頂戴
 食べなさい
 お粥
 かゆい
 大変危険だ
 たやすいことだ
 凶作
 ぐちゃつとしている
 吐く
 よくない、悪い
 便所の汲取
 げっそりと
 くれたがる
 毛虫
 尻だぶ
 つまづく
 いちばんあと、ビリ
 頑張る
 弱々しく頼りない
 あげない
 下さい
 ちんちん
 ケフ 帽子
 ケラ あげる
 ケリ 靴
 ケル あげる
 ケロ ください、よこせ
 ゲロゴ おたまじゃくし
 ゲロット すっかり
 ケヤグ 友だち
 ケンド 道路
 (コ)
 コエ 疲れて苦しい
 コグ 踏みわける
 ココ どもり
 ココ にわとり
 コゴリ もののかたまり
 コジャラ 小皿のこと
 ゴジャラシ 恥じをかく
 ゴソヨワダ はらわた
 ゴソガラ 五所川原のこと
 ゴダシ ねこそぎ
 コタラネ 藁で編んだ背負い籠
 コチャコイ こんなに
 こつちにこい

コチヨガス くすぐる
 コチヨラド こっそりと
 コツケル こじれる
 コネクル わざと話をこねくり廻す
 コバム ねたむ
 コブラ ふくらはぎ
 コマル 頭をさげる、礼
 ゴママント 無数に
 コリ 氷
 ゴロット 横たわっている
 コンキ これだけ
 コンミド しみじみと
 コンベ 頭
 ゴンボホリ くだをまく人

サシネ やかましい
 サシブリ しばらく
 サジャラド さらっと
 サダダ 困ったことだ
 サッコイ 冷たい
 サッサド なまけないで
 サナブリ 作業の区切りの休日
 サナガリ お産した後の体
 サネ ある
 サバカパド さっぱりした
 サビイ 寒い
 サヒトリ 田騷に馬を引く人
 サフロ すこつぶ
 サブギ 咳
 サペチヨ よくしゃべる人
 サベル ものをいうこと
 サヘロ 知らせろ
 サリキ 車力村のこと
 サルケ 泥炭のこと燃料
 サンジャグ 帯のこと
 サント 妊産婦
 サントゴ さいふのこと
 サントマグラ 藁で作った高い枕

(シ)
 シー 牛馬を歩かせると
 シガ やりませるか
 シカダ 皮膚にできる赤味の斑点
 シカリ 頭部の禿、火傷の痕
 ジギ 肥料
 ジギ 遠慮する
 ジグダマル ちぢこまる
 ジグナシ 意気地なし
 シケル 取り換える
 シケニン 支配人、指揮する人
 シコラゲル 腰を前後に動かす
 ジシメグ 恐れて後退
 シズガル からかう
 シソ 女の陰部
 シソカジャ お産のとき風邪をひく
 シタゲタ したあご
 シタジ 汁
 シタナ いろいろの上の干し棚
 シタネバリ 口がよくまわらない
 シタパツテ しかし乍ら
 シタフギ 雑巾のこと
 シタリバチ 左利き
 シチコ 泉の湧き出るところ

シチコイ 執念深い
 シチギ 囲炉裏の縁
 シツバ 尾
 ジツパド いっぱいに
 シツモツ ためらうようし
 シトカモネ 構わない
 シトギ 油で焼いた餅
 シトシネ 世話しない
 シトス 世話する
 シトラメグ 大分重い
 シノハタ しめつてやわらかい
 シノル 薪火の傍
 シバケル 身体を後にそらす
 シバサネ 寒さが厳しい
 シビ 着物の帯を折り曲げる
 シビ あかぎれ
 シビ 藁の屑
 シビリグ 手足がしびれる
 シブタレル おちぶれる
 ジヘラド 知らんぷりして
 シボド 囲炉裏のこと
 シミス おしめ、おむつ
 シミドゲル 凍っていたのが溶ける
 シヤグ 柄杓のこと

(サ)

サ 念をおす
 サカサマジゲ 逆さにまっげがある
 サガシ かしこい
 サガブ 呼ぶ
 サキタ ちよつと先に
 サグス 飯や汁を吸くうしやもじのこと
 サグシコ 三ヶ月型の顔
 ササル 取りまく、くつつく

シラゴボ しらくも、頭のはく
 シラゾグ せん 擦り傷などしみる
 ジラベ 痛み
 シラヘロ 平均
 シルワン 教えてくれ
 シロサギ お碗
 シロバチ 弘前市のこと
 シンケタカレ すり鉢のこと
 シンバレ 病的な神経質のこと
 しもやけ

スナブル しゃぶる
 スネカラ 膝からくるぶしまで
 スパネ 泥がはねる
 スパサネトル 着物のスソを上げて、帯にはさむ
 スミスゴ 炭俵
 スヤミス 冷たいご飯
 ズルスケ ずるいやつ
 ズンブ はなはだ

ソラデ 手首や指関節が腫れる
 ソリゲル 反り返る、威張る
 ソユ 醤油
 ソンダ その通りだ
 ソンド 散らかしているさま

ジャド 盲人
 シャツコイ 冷たい
 ジャツパ おてんば娘
 ジャパジル 魚の骨や頭などの混合煮
 ジャヒフリ 機嫌とり
 ジャマ 背丈、身長
 ジャワメグ 寒気がする
 ジャンボ 頭髪
 ジユウ 奥の座敷
 ジユナイグ 都合のよいように
 ジョウバチ ご飯を入れるおはつ
 ジョウブグロ 封筒
 ジョデ ぜったいに
 ジョッキラド まっすぐ
 ジョッパリ 強情っぱり
 ジョバウツ 糊のつけた衣類を打つ
 ショベガデ 排尿回数が少ない
 ショベタイネ 排尿回数が多い
 ショベツゴ 小便をためておく桶
 ジョメズ 米のとき汁
 ジョロット 正常に
 ジョンバケツ 出っ尻

(ス)
 シラゴボ しらくも、頭のはく
 シラゾグ せん 擦り傷などしみる
 ジラベ 痛み
 シラヘロ 平均
 シルワン 教えてくれ
 シロサギ お碗
 シロバチ 弘前市のこと
 シンケタカレ すり鉢のこと
 シンバレ 病的な神経質のこと
 しもやけ

(ソ)
 ソウガツ 膀胱炎
 ソゴエ 布に敷物をあてて貼る、あかきもの
 ソゴマメ 足にできる血まめ
 ソジ そっち、お前
 ソダズ そのようなこと
 ソダデバ そのようなわけ
 ソダハデ そのようなから
 ソッタラネ そんなに
 ソツチャ そちらの方へ
 ソツタイゲ 背負って行きなさい
 ソトガモ 爪先を外側に向け
 ソベ て歩く
 ソヘバ 小便
 そうなれば

(タ)
 タガナジギ 誰
 タガリ おでこのこと
 タグル …の集まり
 タグレル 着物を巻くりあげる
 タジガル 皮がまくれ肉が見えてる
 タジハコ 掴まる
 タダンツケ 立ったまま振舞酒
 タダデネエ 荷物を運搬する人
 タデル 普通でない
 タナ 動物を飼う
 タナグ 子供をおんぶする
 タバ 持って運ぶ
 タビヨン どうですか、疑問
 タホラットス 多分、そうだろう
 タマケル 疲労して軽い倦怠感のとき
 タマゲル 沈黙する
 非常に驚ろく

チヨス いじる
チヨチヨズ やくしゃべる
チヨビット 少し
チヨロメガス 着飾って歩く

(ツ)

ツキアゲル 吐き気、吐こうとする
ツケラット 知らんぷりして
ヅサマ 祖父、おじいさん
ヅッコ 祖父、おじいさん
ヅツラゴ 帯状疱疹のこと
ツバメル 切ってちぢめる
ツボケ 強情張で意見の聞かないやつ
ツマクル 無理やり詰める
ツモゴ 藁で編んだ靴
ツラツギ 嫌な顔して見せる
ツラノケ 顔の毛
ツラフギ 顔を洗うタオル
ツルム ひきつる

(テ)

テイゴ 太鼓
デイゴ 大根
デカリ 頭の禿や火傷の痕

テゲ たいぎ
テケエ 手、指のない人
テケシ 藁で編んで手袋
デッターダ すごく大きい
テッペ 精一杯
テドリ 大きな鉄びん
テナガ 盗人
テヌギ 手拭
テヘ 桶
デベチヨ でべそ
テラコ 蝶々
デラット 全部
テラテラ 光っているさま
テラテラ 髪に油を沢山つけ
テラド 連中
テラパゲ はげあたま
テロテロ 泥酔でとろんとしている
デンガグババ 産婆
デンコ お金
デンパタ 田や畑
テンポ 無鉄砲

(ト)

トギ 魚の骨のこと

ドギ 玄関の入り口
トゴジエ 床づれ
ドゴネ どこにそんなに
ドゴチャ どちらへ
ドシテラバ どうしていましたか
ドス ハンセン氏病
ドダバ どうですか
トックラガル 引っくり返る
トツケゲ まつち、燐火
トツコド じつくりと
トツツバレ おしまい
ドッテンシタ 驚いた
トドコナジギ 額が高く出ている
トバル 詰まる
トベカベ 寝る
トベル あべこべ
トホヌゲ 塞ぐ
トホラント 阿呆
トラボ 気が抜けばんやりと
トロケル いなご、バッター
トロジ 片付ける
ドンジ 家の中の土間
お尻

(ナ)

ナ おまえ、君
ナガケリ 長靴
ナガジ 女性性器
ナカシゲ 中柏木のこと
ナガマル 寝ころぶ
ナジギ ひたい
ナンテ どうして
ナタカタ どうしても
ナナ そのようになるなよ
ナカニモ 何もかにも
ナモヤ 何でもない
ナニギニナル 他人の云いなりになる
ナンボ いくら
ナンボナンデモ どんなにされても

(ニ)

ニカメグ にかんでしわがよる
ニギニギ 油ぎってねばねばする

ニグラット にんまりと
ニシル 煮え過ぎる
ニヤメグ ふくみ笑うさま
ニラ 農作業場
ニラメグ 腹痛のこと

(ヌ)

ヌグイ 暑い
ヌグダマル 暖たまる
ヌグヌグド 暖かいさま
ヌダバレ 腹這えになれ

(ネ)

ネゴ 藁で編んだフトン、十三ネゴ
ネゴ 一輪車のこと
ネゴモノ できもの、面疔
ネシ でしたね
ネジツグリ てんかん
ネノ あなたの
ネハ ……ですよね
ネバル くつつく
ネプテ 眠い
ネブリカゲ いねむり
ネマル 座る

ネル こねる
ネンバツツ 粘土、壁の材料

(ノ)

ノ ……そうでしょう
ノゴレ 心のこり
ノダバル 腹這えになる
ノタンコ 思いっきり、充分に
ノツツド どっさり
ノツツメガス 叩きのめす
ノドベ 咽喉
ノノコ 大いに
ノノサマ お月様
ノブデ 凶々しい
ノメ 隙の縁のできもの
ノメクル つんのめる
ノメクレ 帰れ
ノレソレ 思いっきり

(ハ)

ハイト 「はい」どうぞ
ハガイグ 仕事がかどる
ハカハカッテ 気が気でない、せかせかする
ハギ 箒のこと

ハグラソ 日射病
バグル 物と物とを交換する
バシラグ どたばた騒ぐ
ハンシャグ 元気がいい
ハダゲル こする
ハダル ねだる
ハチ 左利き
ハテ 早くも
ハテ お婆さん
ハテ さてさて
ハテ ……と言って
ハナゴド 男性性器
ハナゴド そうでないか
ハバ いびき
ハバガル 糞
ハバギヌギ 股を開く
ハバゲル 旅行から帰ったとき
ハボメグ 吐きそうになる
ハメル 物がひるがえるさま
ハヤメグ ごまかす
ハラオキ 用ありげに、ほつき歩く
ハラジシ 妊産婦
ハレマブヂ 下腹部の脂肪
ハレマブヂ 脇が腫れている

(ヒ)

ヒジャカブ 膝小僧
ヒジャツレ 肘のこと
ヒス 穴につめる
ヒダ めんこ
ヒダリ 顔が真円くふとっている
ヒッキ 赤子
ヒベ 蟬のこと
ヒヤッコイ 冷たい
ヒョン 多分そうだろう
ビロ よだれ
ヒンズリ 男の自慰行為
ヒンチ 便所
ヒント 銭湯、浴場

ドンジャ 刺した作業着
ドンパチ そそかしい状態
ドンベ 腹の出た太った人
トンボカゲル はかりにかける

ハンパ 半分
ハンブカゲ 仕事をなげだして

(ヒ)

ヒジャカブ 膝小僧
ヒジャツレ 肘のこと
ヒス 穴につめる
ビダ めんこ
ビダリ 顔が真円くふとっ
ビッキ 赤子
ヒベ 蟬のこと
ヒヤッコイ 冷たい
ビヨソ 多分そうだろう
ビロ よだれ
ヒンズリ 男の自慰行為
ヒンチ 便所
ヒント 銭湯、浴場
ヒンボツケ 生大根の一本漬

(フ)
フア 歯
フエチヨ ひそ
フカゲル どもる人

フカラマル 引つからまる
フケサメ 寒暖の差烈しくどっ
フケデラ ちつかず
フケル 発情している
フジ 抱いておしっこ
フジマネ せれる
フジヤマ 川や沼の深いところ
フジヤラム だらしが無い
フスマノテカゲ 態度
ブタグル 殴ってやる
ブタマブヂ 大きく引込んだ眼
ブツチャゲル 取ってしまふ
ブツマゲル 踏み潰される
ブツ 二重まぶた
ブツケル 叩く
ブツマゲル 息を吹き込む
ブツマゲル 紙や布が裂ける
ブツマゲル 言ってしまう
フト 人のこと
フトズ 同じ、そっくり
フトマブヂ 一重まぶた
フパル 引く
フツツラ 頬をふくらませる
フムスル さま
フランケ むしりとる
フルダゲル 女性の防寒マント
広げる

(ヘ)

フンチャギ 藤崎町のこと
ヘグ だんだらう
ヘゲ 怒る
ヘゴマ 小さな水路
ヘズナガル 牛の子
ヘズナミ よく働らく
ヘズネ 苦しがる
ヘセ 苦しい
ベチヨ そうですね
ベチヨカク 泣き出しそうになる
ヘチヨベ 鍋や釜の底につく煤
ヘチヨマガリ 強情張
ヘデアベ 連れて行ってくれ
ヘデエグ 連れてゆく
ヘトメグ 乳児の頭のじく
ヘナガ 背中
ヘネ 背骨
ヘバ 入れない
ヘボネ それでは
ヘベ 蛇

(ホ)

ヘラコ 年上の女房
ヘル 入れる
ベロツト 突然に
ヘンカス ひっぱたく
ヘンキ 脱腸
ベンジャ 下駄スケート
ヘンダク 服装
ホイド 乞食
ホゴス とりこわす
ホゴル じゃれて組み合う
ホコロピ 着物の縫目が破れ
ホサマ 盲目乞食
ホジ 盲目乞食
ホタクル 追いつく
ホタコ 追いつく
ホツカムリ へそくり
ホッキラド 手拭で顔を包む
ホド 突然
ホノゴ ほうし
ホペダ 農作業着
ホハラ 首のうしろの部分
阿呆 頬(ほほ)

ホロゴル 払い落とす
ホンジナス 全くの無学だ
ホンジネ 少しぬけている
ホンツケネ おろかもの
ボンズ お坊さん

(マ)

マイネ だめだ
マガス こぼす
マカダ 股ぐら
マガダネアワネ 引き合わせぬ
マガネ 服装
マガヘキリ 他人に任せきり
マギ 血統
マギギリ 頭髪をつむじ
マギリ ナイフ
マグネ おいしくない、ま
マグラサゲ ずい
マグラル 食べる
マゲ 物置や馬舎の二階
マゴヂ 藁で編んだ馬の杓
マシゲ すりこぎ、かき廻
マシゲ し棒
マツゲ まつ毛
マチコイ 眩しい

マツカ 幹と幹の間
マツゲナイグ 買物に行く
マツコ お年玉
マツコ 馬
マツト もつと
マツバレバ 集まれば
マデネ ていねいに
マナグ 眼、目
マネ だめだ
マブス 眩しい、綺麗だ
マブチ 暇
マホメグ 用ありげにほっ
ママ き歩く
マミシ ご飯
マミシグネ 健康だ
マメ 妊娠したこと
マルツト 忠実だ
マンジ すっかり
おおむね おおむね
ミシ ご飯
ミジオドシ みぞおち
ミッタグナシ 顔も見たくない奴
ミッタダ いつも、毎日のよ
うに

(ム)

ミツド 真剣に
ミツドカカル 気落ちせずしっか
ミミキカジ りやる
ミミダレ 耳の聞こえない人
ミンジャ 耳からウミが出る
ミンジャスイ 台所
ミンパ 炊事場から排水す
見映え
ムガツネ むこうずね
ムガバ 出っ歯
ムゲドギ 一才の誕生日
ムゲナイグ 迎えに行くから
ムシケル 生れる
ムシノゴ しらみの卵
ムジル 体をひねる
ムジャゲル 裂ける
ムタド いつも、いつも
ムタムタド 勢いこんで
ムツケデラ 傾いている
ムツケラ そっくり、全部
ムツドキイダ 深い傷痕
ムツツラド 黙り込む
ムナガラ 胸のあたり

(メ)

ムヒル 煙にむせる
ムル 漏れる
メ おいしい
メクサレ 目の縁が腐る病氣
メグセエ 恥じかしい
メグネ まずい
メゴイ 可愛い
メゴグネエ 可愛い
メゴコ 可愛い子
メジャ 可愛いよ
メダリ エプロン
メッコ 盲人
メ・ナ おいしいかい
メバナシナネ 目を離すことがで
メボシ きない
メラシ 目に見える白い斑
メヤシ 点のようなもの
メヨリ 年頃の娘
メンコイ 人の噂をあげつらう
メンタ 目やに、目くそ
メンジ 可愛い
メンジャ 女性のこと
毎日 流し台のある所

(モ) 萌え出した芽
モエコ 可愛想
モジャ 可愛想
モジワラキヘル おだてる
モチヨガス くすぐる
モチヨコチャ くすぐりたい
モッキリ 冷たい茶碗酒
モックラド こんもりと
モッケ 蛙
モツケ 少し鈍い人
モッコクル 怖いものがくるの例
モツタリマゲダリ 盛ったり、捨てたりどつちか

ヤメソ 寝巻
ヤメド 病人
ヤメル じきじき痛む
ヤントラ 墓地
(ユ) ユキメグ 揺れる
ヤキラメグ 揺れるようになる
ユサ 風呂に行く
ユッタド ゆっくりと
ユベナ 昨夜
ユマグレ 長湯でのぼせる

(ラ) ランキタガレ すぐに荒れる人
ワ 自分、私
ワイハ あらまあ
ワカリシタ わかりました
ワキバラ 身体の横腹
ワジャト わざと
ワシワシッテ 寒さにぶるぶる震えて
ワツツド がつんと
ワツパ 桶、木片で作った入れ物
ワツパミシ わっぱに入れた弁当のこと
ワラシ 子ども
ワラハド 子どもたち
ワソツカ ほんの少し

ソ ハイ
ソ どうか?
ソ 違うよ
ソ そうですか?
ソ そうですね
ソ そうですよ



津軽弁嘉瀬の笑い話

モモシギコ

アヤ 「アッパ、シルマニ、シガー」
アッパ 「ワイハー、シルマネモガー、ナンボスキダケア」
シタドモ、アッパ、ニグニグッテ
「アヤヤ、ヘバ、モモシギコ、ヌグハンデ」

(村)

(解説) 股 引き
父 「母さん、お昼にしようか」
母 「まあ、お昼にもするの、何て好きなこと」
けれど、母さん、にやにやしなから
「父さん、それでは股引き、脱ぐから」



津軽の里から消えた食べ物 ②

▽しとき

しときは今でも作られている。今は、お焼きといって売っているようだが、現代の子供たちは見向きもしない。

昔は、神様にお供えするために作られたもので、生しときは、神様に供えたあと、しほととの灰に埋めて焼いて食べる。

しときを作る粉は、だんごの粉と同じく、もち米とうるち米を半々にして、一回に三升ほどはたく。白も杵も餅を搗くのよりひとまわり小さい。ついた粉を網目の細いシノでとす。しとね方、あんこの入れ方はだんごを作るのと同じだが、だんごは丸く、しときは手でつぶして大福餅の形にする。

▽糊かす餅

あんこも、塩あんと砂糖あんがあり、こすあん、つぶしあんがあった。

出来上がったものは、なべすり餅と同じである。

糊かすは、衣類の洗い張りや、布団皮を洗った時、布に米糊をつけて乾かし、じょうば打ち(粘打ち)するが、その米糊をつくる時出るものである。

米を二〜三日水につけ、すり鉢ですりつぶして粉をつくる。よくすりつぶしたつもりでも、袋でこすと、必ずだけ米が残る。これが糊かすである。

この糊かすをすり鉢に入れ、残り飯とまぜて、黒砂糖など入れて、焼きなべに油を敷き、両面を焼く。

焼き上がったものを三角形に切って皿に盛り、お茶菓子代りにしたり、子供のおやつにする。

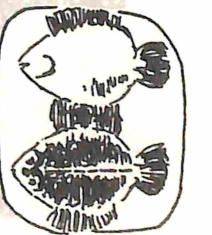
(山)



お城コ

— 嘉勢館と小田川城 —

山中正津



今日の出来事が、何十年後には昔話として語られるだろう。年老えたかたればは、そんなことを考えながら、村の東端につづく立山から更に東側の山並みを見つめていた。

立山は標高五十メートルほどの丘と言った方が適切かも知れない低い山である。観音山と言われ、観音堂、招魂堂、薬師堂、太子堂、山ノ神の社などあり、昭和八年には三十三観音が建立されている信仰の丘であり、昭和の初めからスキー場が設けられ、春には桜が花開き、行楽地としても土地の人々から親しまれている所である。

松林の下にはハツタケが沢山生えて、戦前（太平洋戦争前）の小学生は、小学校から近い観音山での茸狩りに、学校から下校すれば家へ帰らずそのまま山へ走って行った記憶のある人が多いだろう。ハツタケと言えばお城コも茸の宝庫であった。松の木も今ほど大きくなく、ハツタケやイクジ（アミダケ）発生には絶好の環境であった。

お城コの松は、昭和二年から帝国在郷軍人会嘉瀬村分会が植林したもので、植栽された樹種は松だけでなく、杉と約半々で植樹面積が約十五町歩（嘉瀬字端山崎二六七番の内）である。植林に当たっては、愛国婦人会嘉瀬村分会（飯塚タミ分会長）の全面的な作業奉仕があった。土地は嘉瀬村大字嘉瀬（嘉瀬財産区）の所有で原野であったのが松の木が成長した前後、個人所有になってから

山林という地目になったものである。

財産区は、明治二十二年の町村制施行の際に設けられたもので、次のような告示で制定された。

告示第九十八号

其村各大字ニ於テ特別ニ所有スル財産若クワ營造物ニ関スル事務ノタメ区会ヲ設クルヲ必要ト認め内務大臣ノ許可ヲ受ケ町村制第一百四十二条ニ依リ別紙ノ通り条例ヲ発行ス

明治二十二年十二月三日

北津軽郡長 杉山龍江 印

戦後新憲法のもとに昭和二十二年四月一七日地方自治法が制定され、その中でも財産区についての条項が規定されている。

逐条解説自治要覧（編集者東京法制研究会）によれば財産区の沿革を次のように記している。

1 財産区の沿革、財産区を沿革的にみれば町村制施行以前からその形態が存在していたのである。すなわち、徳川時代において部落民の入会（一定の地域の住民が一定の場所において共同して収益、所有すること）その他の部落習慣によって存在していたものである。部落民が山林を習慣によって部落民の共有にして飼養収益していたときであり、これは部落民の生活共同体にとって必要欠くべからざるものであり、部落民の共有物であって、これについては個人の所有権は認められていなかったのである。これらの習慣または入会による部落共有の山林等が明治二十二年の市制、町村制施行に伴い、従来七万余の旧町村を一万三千余の新町村に改めた際、旧町村で生活の共同体としての



植林成就記念碑

山林等を共有していた部落の財産を、そのまま存続することを認めたものであるが、それが財産区の初めといえる。（以下省略）

お城コは、その昔部落共有の株場であった。

昭和二年三月十九日工藤保次郎村長が辞職、三月二十九日に山中禮一氏が村長に就任した。山中村長は村の将来を展望、水田農業を振興するには、水の確保が第一であると考え、お城の株場に植林し、三左エ門溜池の貯水により駒留地域水田の水不足を補う事を計画した。植林による山の保水力を高めると言っても、三十年、五十年先の事を考えての施策であった。

山中村長は当時の区会議員に諮り、同意を得、更に在郷軍人会分会に相談し、愛国婦人会嘉瀬分会の組織に奉仕協力を求めた。

同年九月一日には、区会議員と農会議員が北海道の視察を行い、治山治水の研修をしている。

山中禮一村長の任期が昭和六年二月に終り、次に伊藤亀吉（六年三月から八年）、鳴海由次郎（八年九月から十年七月）、高橋竹太郎（十年八月十二年九月まで）と村長は交代したが、お城コの植林と保育は十年の秋まで続き、約十五町歩の面積を植え終ったのは、村会、区会、農業団体、在郷軍人会、愛国婦人会等の一致協力の成果であった。